



日系新聞

所載

伊藤信比古作成

簡易年表

1803年（享保3年）

1793年石巻港（宮城県）出航の帆船「若宮丸」が難破し、ロシア領に漂着。その乗組員4人が1803年、ロシアの首都ペテルスブルグより軍艦ナデシュダ号、ネヴァ号に乗船し日本に送還される途中、破損した艦艇修理のためにサンタカタリーナ州デステロ（現フロリアーノポリス）に入港。4人が下船し約2ヵ月間この地方を歩いた。両艦は1805年長崎に入港し4人を日本側に引き渡した。



1822年（文政5年）

ブラジルが帝国としてポルトガルから独立。

1824年（文政7年）

ドイツ人移民がブラジル南部に最初の外国人移民として南リオグランデ州サン・レオポルド植民地に入植。

1841年（天保12年）

独立後最初のポルトガル移民が、サンパウロ州のコヒー園に入る。

1850年（嘉永3年）

サンタ・カタリーナ州のブルメナウ植民地開設。最初のドイツ人移民到着。

1856年（安政3年）

サンパウロに最初のスペイン移民。

1867年（慶応3年）

1月 徳川幕府がオランダに発注した開闢丸が竣工し、日本向けに出航した。この船にはオランダに留学していた榎本釜次郎（武揚）、内田垣次郎、沢太郎左衛門、田口俊平ら4人のほか、5人の日本人技術者が乗船していた。この船は1867年1月21日にリオデジャネイロに入港し11日間停泊した。この間9

人は上陸し市内見学を行った。

2月 サントス＝ジュンジャイー鉄道が開通。

11月 アメリカ南部からの移民がサンパウロ州に入植。最初のポーランド移民がパラナ州に到着。

1870年（明治3年）

大西洋航海のイギリス艦の乗組員だった前田十郎左衛門（鹿児島県出身）が、サルバドール港に停泊中だった10月7日に突然割腹自殺した。

1872年（明治5年）

最初のオーストリア移民がサンパウロ州に到着。

1874年（明治7年）

最初のイタリア人移民がサンパウロ州に到着。

1888年（明治21年）

ブラジルの奴隷制度廃止。これが外国移民を急激に促進させる。

1889年（明治22年）

イタリアがブラジル向け移民を禁止。

11月 ブラジル共和国宣言。ブラジル帝制が廃止され共和制となる。

1892年（明治25年）

中国からの移民が入国。

1894年（明治27年）

代議士根本正、官命をおびてブラジルおよび中南米の視察に向かう。（根本正は榎本武揚子爵の植民協会の中堅で熱心な移殖民運動家の一人）。ブラジルより榎本子爵に対する報告書の中でブラジル移民を強く進言し、その中で“日本のためのみならず、人類を救う意義あり”と記述している。

1895年（明治28年）

11月 フランス国パリにて日伯修好通商航海条約調印。日本側全権曾弥荒助、ブラジル側全権ガブリエール・デ・トレード・ピーザ・エ・アルメイダが調印。

## ブラジル日本人移民20世紀のあゆみ

（100年史）

### ブラジル日本人移民 前史

### 1897年 (明治30年)

リオ州ベトロポリスに日本公使館を開設。  
初代公使は珍田捨己(1897~99年)。  
“ブラジルは邦人の移住すべき土地にあらず”  
と外務本省に具申。

東洋移民会社と日本移民会社がブラジル側の  
2社と日本移民導入を契約し、このうち東洋  
移民の方は同97年8月15日に第1船が出  
航するとこまでいったが、コーヒーの国際相  
場大暴落のため契約が破棄された。

### 1899年 (明治32年)

移民会社扱いのペルー移民が始まる。ペルー  
移民は1923年まで1万7764人を送り  
だすが、受入れ態勢の不備、社会・経済状態  
に問題が多く、初期移民はブラジルまで流亡  
したものもいたことで知られる。  
アマソナス、パラ州でもゴム採集人として日  
本移民要望がでるが、日本公使館は労働内容  
が日本人に不相当として反対。

### 1901年 (明治34年)

サンパウロ州政府が日本人移民にもヨーロッ  
パ移民と同様に補助金の下付を決定したが、  
日本側はコーヒー暴落による問題に加え、日  
露戦争の直前で移民を許可しない。

### 1902年 (明治35年)

3月 イタリア政府は外務省令をもってサンパウ  
ロ州政府資金補助による移民を禁止。(これが  
日本移民導入の直接の契機となる)

### 1903年 (明治36年)

アクレ地方にペルー移民のゴム景気に刺激さ  
れた出稼ぎ者定着。ゴム景気後、一部がマナ  
ウス、ベレンに下り、野菜栽培を始める。

### 1905年 (明治38年)

4月 第3代日本公使杉村濤(ふかし)が着任。  
12月 帝国殖民会社の水野龍(りょう)、日本人の移  
住地を求めてチリ経由ブラジルへ向かう。  
ブラジルには翌年3月27日リオ上陸。

### 1906年 (明治39年)

3月 新しい日本人移住地を求めてペルー、チリ、  
アルゼンチンを視察してきたの水野龍がブラ  
ジルに到着し、サンパウロ州農業地帯を視察。  
チリに上陸するはずだった鈴木貞次郎を伴った。  
7月 宮城県仙台の藤崎商会の野間貞次郎、後藤武  
夫、佐久間重吉、田中良吉らがサンパウロ市内  
に日本人第1号の商店を開設(9月24日)。  
同年、明穂梅吉、  
安田良一、隅部  
三郎などが自由  
移民として渡航。



### 1907年 (明治40年)

3月 内田定槌(さだづち) 第四代日本公使として  
着任。10月9日特命全権公使となる。  
8月 大平善太郎、猿橋伝と豊島昌を伴って再渡  
伯、日本雑貨店「日伯商会」をリオに開く。  
これが同市における日本商店のさきがけとなる。  
11月 水野龍が再渡伯し、サンパウロ州農務長官ボ  
テリョと交渉して「向こう3カ年に日本移  
民3000名を導入する」契約に調印。  
先に水野に伴れて渡伯した鈴木貞次郎はファ  
ゼンダでの労働体験を目的にコーヒー園で働  
いた。

### 1908年 (明治41年)

5月 通訳5人男として知られる加藤順之助、峰  
昌、仁平崇、大野基尚、平野運平、シベリア  
経由でサントス港着。

1908年(明治41年)

6月4月28日神戸港から781人の契約移民(165家族733人、独身者48人)の他自由渡航者12人を



乗せた『笠戸丸』が出航、同6月18日サントス港に入港。これがブラジルに於ける日本人移民の始まりとされる。

サントス港埠頭から移民用特別列車でサンパウロ市の移民収容所に到着。同25日から7月6日にかけて6つの耕地に配耕される。

1909年(明治42年)

9月 在ベトロポリス日本公使館の野村良治通訳官が関係耕地を視察、配耕された781人のうち191人が耕地に残っていただけで、大多数はサンパウロ市、サントス市、またはアルゼンチン国へ転住等コーヒー移民は散々な成績に終わる。

1910年(明治43年)

6月『旅順丸』による第二回移民906人(ほかに自由渡航者3人)が6月28日サントス港に着く。引率者水野龍。これは通称「竹村第1回移民」と呼ばれる。

1911年(明治44年)

2月 ソロカバーナ線セルケイラセーザル駅の奥に所在した第一モンソン植民地に日本人の5家族が入植、日本移民最初の土地所有者となる。また、日本人とし

て最初に綿を栽培した。

1912年(明治45年/大正元年)

4月 第3回移民船(竹村第2回)『巖島丸』1432人を乗せてサントス港に入港。巖島丸で渡航した福島県の1家族が北バラナの農場に配耕され、これが北バラナにおける最初の日本人となる。同農場には1932年当時10家族の日本人がいた。

第4回移民船『神奈川丸』が1412人を乗せてサントス港に入港。(この船は若狭丸だったとの説もある)これは通称「東洋第一回移民」と呼ばれた。

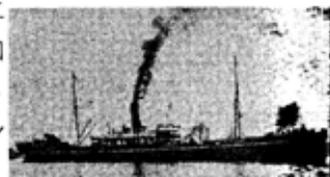
9月 マディラ・マモレー鉄道が運行開始。1907年から始まったこの鉄道工事にペルーからアマゾン河を下ってきた日本人が相当数従事していたという。

第2回船で渡伯した福岡県人・馬見塚竹浩がサンパウロ市場を視察し蔬菜類の価格を知って、サンパウロ市近郊のタイバスにおいてジャガイモ作りを始める。日本人による近郊農業のパイオニアと呼ばれる。

1913年(大正2年)

5月 グアタバラ農場でコロノ契約を終えた秋村長寿ら熊本、福岡県出身10家族が、サンパウロ近郊ジュケリー(現在のマイリポラン)で近郊農作物の栽培を始める。

7日、第5回『第二雲海丸』(竹村第3回移民)が、移民1506人を乗せてサントスに入港。



15日、第6回『若狭丸』（東洋第2回移民）が1588人を乗せてサントスに入港。

**8月28日、ミナスの金山移民が到着。ミナス金山と契約した107人として唯一の金鉱移民。**

24日、第7回『帝国丸』（竹村第4回移民）が1946人を乗せてサントスに入港。（原簿には第5回とある）

11月3日、第8回『若狭丸』（東洋第3回移民）サントス入港。移民1808人乗船（1908人という説もある）

イグアッペ植民地の入植開始。（これらの入植者は日本からの直来ではなく、コーヒー園からサンパウロ市に



出てきた者が多い。）出稼ぎ性の移民だったところに永住性を考えた最初の計画だった。ここは後に桂植民地と呼ばれるようになる。

1912年より着手されたサントス—ジュキア鉄道敷設に就労したサントス在住の沖縄県人が同鉄道沿線のアナジアスの州有地の払い下げを受け、米作に

着手。これを皮切りに沖縄県人移住者が次々に集まり一大集団地となる。

1914年（大正3年）

3月 サンパウロ州政府は1915年度よりの日本移民の渡航費補助中止を通達。

4月 第9回『若狭丸』が1688人を乗せてサントスに入港。（東洋第4回移民）

5月 第10回『帝国丸』が1809人を乗せてサントスに入港。（竹村第5回移民）

9月 レジストロ植民地に初の入植者。（南聖、イグアッペ郡）

10月 サンパウロ市郊外のコチア植民地に鈴木貞次郎の世話で日本人家族が入植。

神田栄太郎（第1回笠戸丸移民）が、この頃サントス市で醤油を売り出す。

1915年（大正4年）

3月 東京植民地をパウリスタ線モツーカ駅に創設。1933年頃は日本人家族70戸、421名が居住。コーヒー樹16万本を数え、米作方面でも有名になる。

5月 パラナ州アントニーナ郡のバナナ園に邦人が入り米作を行う。

7月14日、正式にサンパウロ日本総領事館開設。初代

総領事に松村貞雄が任命される。

- 8月 平野植民地がサンパウロ州ノロエステ線カフェランジアに開拓着手。

- 10月 大正小学校がサンパウロ市のコンデ街に始まる。

大阪商船が南米航路を開始。

#### 1916年(大正5年)

- 1月 星名謙一郎が週刊『南米』発刊。(縮写版刷り)  
3月 ブラジル移民組合(竹村、東洋、森岡各移民会社が合併)が誕生。  
8月 『日伯新聞』創刊。金子保三郎と輪湖俊午郎によってはじめられた石版刷りの週刊紙で、1919年には活字となり、同時に三浦鑿に買収された。  
イグアッペ植民地、桂小学校設立。

#### 1917年(大正6年)

- 1月 レジストロ植民地へ日本から初の入植者。  
6月 ブラジル移民組合取り扱いの移民1351人を乗せた『若狭丸』がサントス港に入港。補助移民が再開さ



れる。

- 8月 ブラジル移民会社機関紙『伯刺西爾時報』創刊。南米東海岸では最初の邦文活字新聞で、主幹は石黒清作。  
1917年度設立の日本語小学校。旭(ノロエステ線カフェランジア駅平野植民地)、アグア・リンバ(ノロエステ線アラサツバ駅)、ノーバ・エスペランサ(コチア郡コチア植民地)

#### 1918年(大正7年)

- 4月 海外殖民学校創立(東京世田谷区) 校長は崎山比左衛。  
5月 ノロエステ線プロミッソン駅に上塚周平、鈴木貞次郎等によって上塚第一植民地の開拓が始まる(イタコロミー植民地)。  
「ハワイ丸」サントス入港。ブラジル移民組合の第7回移民船となる。  
7月 リベイロン・プレット(サンパウロ州)にサンパウロ領事館分館開設。  
11日、『若狭丸』サントス入港。航海中流行性脳脊髄膜炎が発生し死者53人名を出す。  
8月 マット・グロソ州カンボ・グランデ市に日本人経営の小学校。

10月30日、日本公使館ベトロポリスからリオデジャネ

**イロに移る。特命全権大使に堀口九万一。**

同年、隅部三郎の次女照子、三女暁子がリオの師範学校を卒業、日系最初の小学校教師の資格を取得。翌年二人ともブラジルに帰化、この方面でもその先駆けとなる。

前田光世、柔道世界巡業の途ベレンを訪れ、6年後(1924年)ベレンに定住。アマゾン日本移民導入調査に大きく貢献。(トメアスー開拓50年史)



**1919年(大正8年)**

2月6日、平野運平死去。行年34歳。通訳5人男の一人。11日、日本クラブ創立。

**10月日伯産業組合がミナス州ウベラーバ市に設立され、在伯邦人最初の農業協同組合となる。**

同年に設立された日本人小学校。ポア・ピスタ、東京植民地、ボン・ス



セツソ、ブレジョン。

12月「讃岐丸」サントス港着。ブラジル移民組合の第17回移民船。

**1920年(大正9年)**

3月セツテ・バーラス(イグアッペ第3植民地)開設。5月13日、ミカド・クラブ発会(サンパウロ市)。中心人物は笹原憲次。

**11月モジダスクルーゼスに日本人の借地農入る。これがモジの先駆者とされる。**

この年に設立された小学校。ゴンザーガ、コレゴ・エリージオ、上アグア・リンバ、パイベン。

**1921年(大正10年)**

1月パウルー市に日本領事館開設。副領事・多羅間鉄輔が着任。9月聖州新報パウルー市で創刊。主幹・香山六郎。1934年サンパウロに移り、1935年5月から日刊となる。

**1922年(大正11年)**

1月29日、アリアンサ移住地建設のため日本で信濃海外協会発足。5月13日、「ノロエステ日本人会」、プロミッソンで創立總會開く。

9月7日、ブラジル独立100周年の大祭典がリオデジャネイロであり、日本から巡洋艦『浅間』『磐手』『出雲』の3艦が来航。

#### 1923年(大正12年)

5月 日本帝国公使館が大使館に昇格。堀口九萬一が臨時代理大使に就任。(リオデジャネイロ市)

8月 初代特命全権大使として田付七太着任。

11月21日、金城山戸(笠戸丸移民) 歯科医開業免許を受ける。邦人初の公認歯科医。

#### 1924年(大正13年)

11月 アリアンサ移住地建設(サンパウロ州ミランドポリス郡) 信濃海外協会が着手。

12月 高岡専太郎、伯国医師開業試験に合格。着伯8年目。

#### 1925年(大正14年)

1月 日本外務省の移民事業が通商局第三課の業務となる。

12月 聖州義塾開校(サンパウロ市)、塾長は小林美登利。大阪商船南米航路が政府指定航路となる。

この年からブラジル渡航の移民全員に日本政府が船賃を支給。

#### 1926年(大正15年/昭和元年)

1月 田付七太大使サンパウロを訪問、その足でノロエステ、奥ソロカバナ方面の在住邦人の経済調査の旅にでる。

4月「農業のブラジル」発刊。発行者は揮旗深志(ふりはた ふかし)。1927年有馬鉄之助が受け継ぎ、1930年再び揮旗の手に戻り、同年8月佐藤常蔵の経営となる。

5月8日、神戸に日伯協会設立。

田付七太大使アマゾン視察。

12月 北パラナのパンディランテス  
駅南東20キロの地点にある  
農場を日本の資本家野村徳七



が購入、野村南米農場を開設。

12日、星野謙一郎(1867-1)暗殺される。3日を命日とする説もある。

#### 1927年(昭和2年)

1月 第2代特命全権大使有吉明が就任。

2月 第3アリアンサ移住地3000アルケールを購入(信濃、富山両海外協会合同)。

3月 アマゾンニアのオプション契約。土地100万町歩の「コンセッソン」に関するオプション契約がアマゾン州知事と栗津金六、山西源三郎との間で締結。

6月 サントス市にサンパウロ総領事館出張所が設けられる。(1936年以降は独立の在サントス領事館となる)

8月 日本に海外移住組合連合会が誕生。このブラジルにおける代行機関が後のブラジル拓殖組合。(但し、正式設立は1929年3月25日)

11月 東山農場創設。三菱系の東山農業株式会社がカンピーナス付近に農場を購入。翌年にはピンダモニャンガバ駅から数キロの元藤崎農場を譲り受ける。

#### 12月 コチア産業組

合(コチア・バ  
タタ生産者組  
合)創立。創立  
当時の組合員  
は83人。

日伯協会(神戸)の企画で児童作品絵画の日伯交換を実施(1928~30年)



#### 1928年(昭和3年)

3月 桂植民地(イグアッペ郡)産業組合創立。組合員20人。  
レジストロ農業者産業組合創立。組合員220人。

6月18日、バストス移住地創設記念日。入植は1929年から。

8月9日、チエテ移住地創設記念日。入植は1929年6月1日から。

11日、南米拓殖株式会社(パラ州トメアスー開拓の会社)設立。

9月1日、セッテ・バーラス(イグアッペ植民地内)農業者産業組合創立。組合員147人。

6日、アマゾン興業株式会社創立。1930年までに29家族136人、青年48人が入植したが計画は失敗した。

#### 1929年(昭和4年)

2月 サンパウロ市にカーザ東山株式会社創立。

3月25日、有限会社ブラジル拓殖組合(略称「ブラ拓」)を設立。海外移住組合連合会の現地事業組織となる。

4月12日、パラ州アカラ(現トメアスー)植民地の先発隊が最初の開拓の斧を入れアマゾン開拓のさきがけとなる。

5月 日本政府が「拓務省」を設置し、田中義一首相が初代大臣を兼務した。

9月16日、トメアスー最初の入植者、まにら丸でベレン港着。43家族と単独移民8人を含む189人。

10月 世界的な経済恐慌発生し、コーヒー価格大暴落。

#### 12月 スール・ブラ

ジル(南伯)  
中央農産組  
合がサンバ  
ウロ州のマ  
イリポラン



で創設された。創立会員49人(後に南伯中央会SUL BRASILと改称)

ゴヤス州アナポリスへ日本人入植(いわゆるセラード植民地)始まる。

#### 1930年(昭和5年)

3月 北パラナ土地会社の第一回視察団ロンドリーナ到着。

10月 アマゾニア産業研究所設立。1927年の栗津金六、山西源三郎の100万町歩オプション契約を引き継いだもの。その代表の上塚司一行22名はマナウスにおいてバリンチンス郡ヴィーラ・パチスタの売買契約をむすび、現地に産業研究所の立柱式ならびに斧下式をかねて入植祭を行う。

#### 1931年(昭和6年)

3月 大統領令をもって三浦壑の国外追放令がおきる。

三浦は23日リオで逮捕され、26日ドイツ船で国外追放となる。

6月 アマゾニア産業研究所に入植する第1回高拓生47名がバリンチンスに到着。

9月 コーヒーの海中投棄30万俵に上る。1939年1月までに3384万俵のコーヒーが焼却された。(ブラジルも世界大恐慌の余波を被った)

#### 1932年(昭和7年)

1月14日、日本新聞創刊。社長翁長助成。

3月 日伯裁縫女学校創立。

5月 北パラナのトレス・バーラス移住地(現アサイ)入植開始。

6月1日、「中央線聖市郊外農業協同組合」結成、モジダス・クルーズスに本部を置く。

日本政府はブラジル移住のため渡航者に補助金の外、渡航準備金の下付を決定、実施した。

日本人入国制限論起る。

エメボイ(M' boy)農場実習場開場式。海外興業株式会社(海興)経営。

8月14日、第3代特命全権大使林久次郎がリオに着任。

10月 在サンパウロ帝国総領事館が在伯邦人戸数2万35

07戸、人口13万2689人、地方別集団のトップはノロエステであり、その職業は90%が農業と発表。

11月1933年度入伯許可の日本人は2万5800人と発表される。

29日、日本で日伯中央協会創立、総裁に高松宮殿下。

12月 産業組合法発布。これに基づき有限責任株式会社コチア・バタタ生産者組合は1933年8月にコチア産業組合と改称。

4月現在、ブラジルにおける日本人小学校は187校。(未届け校20校)

### 1933年(昭和8年)

6月18日、日本移民渡伯25周年記念祭がサンパウロ市ピラリアナ区の日本病院敷地で行われた。招待された第1回笠戸丸渡航者60名。式の後、日本病院定礎式を行う。

サンパウロ女学院創立(1957年社団法人として登録、赤間学院となる)。

… 移民輸送監督の臼井牧之助がバラ州トメアスーにコショウの苗20本をシンガポールから移植。育ったのは3本だけであっが、加藤友治と斉藤円治がその後の育成に成功して、コショウ産地となる基礎を築いた。

… アマゾン産業研究所で栽培を試みていたジュートの中から、尾山良太が2本の優良品種を発見し種子を採集。新種と確認されて「尾山種」と命名された。1937年に初めて繊維を商品化。これが1960年代アマゾン州最大の産業に発展した。



9月6日、在伯邦人スポーツ連盟生まれる。

日伯国際陸上競技大会をサンパウロで開催。

### 1934年(昭和9年)

2月 紀元節のこの日、在サンパウロ日本総領事官邸でブラジル日本移民の功労者水野龍と上塚周平に対して勲六等単光旭日章の伝達式が行われた。移住者叙勲の第1号となった。

4月「在伯日本人文化協会」を設立(サンパウロ市)。

日伯産業組合中央会創設。

7月 ブラジル政府が外国移民二分制限法公布。

8月 バラ州ベレンに日本領事館を新設。

サンパウロ州綿の日本輸出始まる。(その後、綿生産が急増するが、生産の半分は日系農家が栽培した)

11月 岡本寅蔵、アッサム茶の種子をレジストロに持ち込む。

### 1935年(昭和10年)

4月 弓場農場の“新しき村”が、サンパウロ州ノロエステ線ミランドポリス駅第一アリアンサ移住地隣接のフォルモーザ区に弓場勇が同志と建設。

6月 サンパウロ市に近いサンベルナルド・ド・カンボの郊外に松本竜一が瑞穂村を建設。

1日、日本からの南米向け海外放送始まる。

8月 カンピーナスの東山酒造会社が日本酒「東麒麟」を披露。

… サンパウロ市立中央市場が落成。この市場を中心にサンパウロ市における日系人の一集団区(メルカード付近)が形成される。

### 1936年(昭和11年)

「伯国日本文化協会」がリオデジャネイロ市に設立される。

2月 大阪に「日伯綿花株式会社」が設立され、ブラジルに支社「プラス



コット」を設け、サンパウロ州内邦人集団地5ヵ所に操縦工場を建て、その経営にあたった。

#### 4月5日、サンパウロ日本病院起工式。

15日、日伯両国間に国際無線電話開通。

6月15日、日伯農事協会設立。エメポイ農事訓練所の運営を行なう。同訓練所は終戦直後まで機能を続けた。

#### 8月 リオグランデ・ド・スール州に初めての日本人植民地。

12月 学生連盟の機関誌「学友」に日系二世初めての弁護士となった下元健郎が「私たちの心情」と題して書いた文章が、「菊花事件」として問題になる。二世がブラジルを母国と認めた最初の記録。

悪性マラリア発病、猛威をふるう。(トメアスー開拓50年史)

#### 1937年(昭和12年)

1月 木下正夫(36年ニテロイ法大卒)弁護士許可。一世として最初。

2月 カンボス・ド・ジョルドン結核療養所開所。

3月 最初のブラジル人日本留学生2名が日本へ出発。

8月 南リオグランデ州に日本人移住決定。第1陣3家族、翌年第2陣10家族。

10月 商社ならびに工場の使用人はその3分の2をブラジル人とすべし、との法令が出る。

ブラジル政府、14歳未満に外国語教授を禁止。

12月 大武和二郎「葡語新辞典」。日本で最初のもので実に多くの移民がこれを利用した。

#### 1938年(昭和13年)

5月 聖州新報が日刊となり、7月には日伯新聞が、8月にはブラジル時報も日刊となる。

8月 ブラジル政府が新移民法を施行。1930年の移民法に基づく改正新移民法は移民の文化上(教育上)の活動に大きな制限を加えた。

日本からブラジル向けラジオ放送が開始される。

12月 25日をもってブラジル全国の外国語学校、主として日・独・伊等の学校が全面的に閉鎖される。この年におけるサンパウロ州の日本人学校は294校、ドイツ系20校、イタリア系は8校であった。



「ベレン野菜組合」(1936年設立)が登録組合となる。

#### 1939年(昭和14年)

1月「日伯文化研究会」誕生。サンパウロ法科大学生が中心。

3月「バンディランテス産業組合」マイリポランで創立。創立組員18人。初期の名称はニッポ・ブラジレイラ農産組合。

4月 ブラジル人で最初の日本語公証翻訳人誕生。29日、日本病院落成式挙行。(1940年9月24日開院式)

総領事館関係の調査によるとこの年の日本人諸団体数は日本人会、青年会、処女会等を合わせて260。

5月 社主三浦聖の国外追放決定を受け日伯新聞発刊停止。(1940年7月『ブラジル朝日』と改名して再刊)

7月 ブラジルより日本に引き揚げる帰国者多数。(ブラジルのナショナリズム旋風の影響による)

#### 1940年(昭和15年)

8月 15日、南米銀行(カーザ・バンカリア・ブラタクから銀行に昇格)設立。

11月 10日、紀元2600年祭挙行。総領事官邸では祝賀会が挙行され在留邦人約300人が出席。

#### 1941年(昭和16年)

2月 外国人登録をしないものは一切の商行為を禁じられる。

3月 パラナ州のクリチーバに帝国領事館を開設。

4月 ブラ拓製糸株式会社設立。本社サンパウロ市、工場バ  
ストス市。

6月 29日、「全伯産業組  
合青年連盟」、略称「産  
青連」結成。



7月 邦字紙停刊。(ブラジル政府の行政命令による)

12月初旬、ブラジル宛て日本からの戦前最後の郵便物がまとまってサンパウロに到着。

1942年(昭和17年)

1月 サンパウロ州保安局、敵性国民に対する取締令を公布  
公告。

29日、日伯国交断絶、在日本公館閉鎖。

2月 2日、サンパウロ市内の日本人集中地域コンデ・デ  
サルジェーダス街界隈から治安上の理由で第1次立  
ち退き命令発令される。

11日、敵性国資産に対する資産凍結令発布。枢軸国  
の資産は種々の束縛・制限が加えられ、屋外での枢  
軸国語の使用が禁じられる。

6月 スパイ容疑で警察に拘引される邦人が次第に多くな  
る。これらの人に対する救済対策として、渡辺マルガ  
リーダ夫人を実行委員長とするサンパウロ・カト  
リック日本人救済会が生まれる。同会は1953年  
5月救済会と改める。

7月 日本政府外交官引き揚げ。

8月 18日、ベレン沖でブラジル商船が撃沈され、ベレン  
市民はその報復手段として、枢軸国民の家屋を破壊・  
放火。日系人の被害甚大。政府はこれをきっかけに監  
視の目的を兼ねて、枢軸国人を「陸の孤島」日本移民  
移住地「アカラ植民地」(現トメアスー植民地)に隔  
離収容。

9月 6日、サンパウロ市のコンデ街界隈の日本人家族に

対し、10日間の期限付きで二度目の立ち退き命令  
発令。戦前から続いた日本人集団地がコンデ街界隈  
から消滅。

1943年(昭和18年)

警察へ拘引される者あとを絶たず、移民の心理が動  
揺し、日本軍によるアジア占領地への再移住論が盛  
んに流布される。

7月 海岸地方在住者に立ち退き命令。

1944年(昭和19年)

4月 日系移民のハッカ精製工場・養蚕小屋の破壊・焼き  
討ち事件が各地に発生。「天誅組」、「青年愛国運動」と  
称する秘密組織がその実行団体と伝えられる。戦後  
の勝ち組、負け組の相剋はすでにこの頃より始まった。

6月 日本海戦のニュースあり、新聞紙上にはアメリカ軍  
の大勝が報じられると共に、日本からのニュースは  
日本軍の勝利を大々的に伝える。事実日本軍の大  
敗であった。

1945年(昭和20年)

6月 6日、ブラジル政府が日本に宣戦布告。ブラジル政府  
は汎アメリカ諸国会議での大陸諸国間の共同防衛の  
連帯義務の再確認決定に基づき、日本に対し宣戦を  
布告した。

8月 14日、日本降伏の報が移民社会に伝わる。

移民同胞間にはこの日すでに「降伏はデマニュース、  
実は日本の大勝利」の報が流布される。以降日本戦勝  
のニュースは各地に伝わり、多くの移民同胞は日本  
勝利を信じるに至る。

9月 日本戦勝を信じる者  
ますます多くなり、  
各地に戦勝団体統々  
と結成される。



10月 時局認識運動動きだす。リオ在万国赤十字社ブラジル支部を通じ、日本より正式に終戦の詔書および海外同胞に対する外務大臣メッセージ到着。

#### 1946年(昭和21年)

3月7日、勝ち組による最初の犠牲者として、バストス産業組合専務理事の溝部幾太が自宅にて暗殺される。

4月1日、サンパウロ在住の元日伯新聞編集者野村忠三郎、ジャバクアラの自宅で勝ち組「臣道連盟」の一人によって射殺される。続いて敗戦認識運動に挺身していた者達が各地で連続的に襲撃され、重軽傷を負うか死亡する者が続出。

8月 勝ち組テロ事件がブラジル憲法審議会に反映。新憲法的一条に「年齢及び出身地の如何を問わず、日本移民の入国を一切禁止する」の条項を盛り込む議案が提出され、論議の上の票決結果は賛成99票、反対99票で議長が反対に1票を投じ同案は危うく否決された。

10月12日、「サンパウロ新聞」創刊。新憲法公布により外国語新聞の刊行が可能となり、邦字新聞刊行の第1号となる。続いて年内に「南米時事」、「伯刺西爾時報」も復刊。

#### 1947年(昭和22年)

1月「パウリスタ新聞」刊行される。

6日、サンパウロ市内で鈴木正司が2人のテロに襲撃され、殺害される。この事件を最後にテロ事件は終結したが、この1年、勝ち負けをめぐる起こされた事件は100件を超え、内殺害による犠牲者数は23人。

5月 サンパウロ市およびその近郊における日系農業者のジャガイモ生産量は州全体の60%と伯国農村協会が発表。

8月 在聖州日本移民の農業生産量はコーヒーがブラジル生産総量の20%、綿花35%、米は26%となる。アカラ産業組合をトメアスー組合と改称し、また植民地名もトメアスー植民地とした。

…この年からコショウの売上が急増。

#### 1948年(昭和23年)

1月 田村幸重がサンパウロ市市議員に補欠から繰上当選。サンパウロ市日系初の市議員。

トメアスー組合がコショウ40トンを出荷。

#### 1949年(昭和24年)

1月「日伯毎日新聞」創刊。

16日、伯国柔道段位を日本講道館が公認を通告。

2月 第1回全伯短歌大会を開催。(サンパウロ市)

3月26日、サンパウロ学生会(後アルモニア寮を建設)発足。法人組織について検討。

5月 日本より貿易使節団が来伯。

6月8日、戦後第1訪日団出発。太田龍二、森田芳一等総勢8人。

7月『コロニア文化振興会』発足。(後にサンパウロ文化協会の設立にともない発展的に解消。サンパウロ文化協会はブラジル日本文化協会へと発展していく)

11月12日、第1回花卉展覧会を開催。(サンパウロ市)

18日、臣道連盟関係者100人に国外追放令がでる。(但し実施されず)

#### 1950年(昭和25年)

3月 日本の水泳チーム、古橋広之進ら飛び魚来伯。戦後日伯交流の先駆けとなる。



10月 日系候補の田村幸重がサンパウロ州議員に当選。

11月 在伯日系人資産凍結解除実現。即日効力発生。

## 1951年(昭和26年)

1月 第1回芸能使節団。東海林太郎、小唄勝太郎、三味線豊吉、浪曲篠田実父子一行が来伯。

2月 26日、東山銀行凍結解除の一番乗りとなる。  
28日、戦後初の日本船として大阪商船神戸丸サントスに入港。

3月 辻小太郎がヴァルガス大統領と会談し、ジュート増産のため日本移民2万5000家族の導入許可を要請。  
オランダ船で戦勝組170人がサントス港を発って永久帰国の途に着く。

12月 辻小太郎が申請していた日本移民2万5000家族導入計画に対して、5000家族が認可の通知を受ける。これを受け日本農林省が移民募集を開始し、移住渡航費貸付けが制度化され、神戸移住幹旋所が再開される。

7日、石黒四郎、戦後初のサンパウロ総領事として着任。

## 1952年(昭和27年)

3月 第1回日本商品見本市を開催。(リオデジャネイロ市)

4月 28日、対日講和条約が発効し、国交が実質的に回復  
リオ在外事務所が大使館に、サンパウロ事務所が総領事館にそれぞれ昇格。

5月 17日、ブラジル4H協会結成される。  
27日、ブラジル最初の『柿祭り』が中央線モジ・ダス・クルーゼスで開かれる。

31日、聖美会主催の初めてのコロニア展が開かれる。

6月 23日、サンパウロ市創立400年祭協会発足。  
市制400年祭祭典協力第一回相談会。

7月 マリア在住の松原安太郎が個人的にゼツリオ大統領から日本移民4000家族の導入許可を受ける。

9月 12日、日伯通商協定調印。  
29日、君塚慎、戦後初の大使として着任。

12月 コショウ価格高騰し、トメアスー植民地が注目浴びる。

## 1953年(昭和28年)

1月 戦後初の呼び寄せで51人の独身青年移民がオランダ船でサントス港に着く。

2月 辻移民17家族54人がジュート栽培のため着伯。  
(戦後初のアマゾン移民)

5月 バラナ州北バラナのアラボンガスの信愛植民地に初入植者。

7月 7日、松原移民枠で22家族112名がオランダ船でサントス港に着きマット・グロソ州ドウラードス植民地に入植。

23日、サンパウロ市内ガルボン・ブエノ街に日本映画館『シネ・ニテロイ』落成。

8月 ブラジル移民審議会はパウリスタ養蚕協会に対して日本人移住者200家族導入を許可。

戦後第一回のトメアスー移民25家族129人が到着。

9月 20日、学生会のアルモニア学生寮落成式。

10月 5日、最初のバイア移民38家族がイリエウス港に上陸。

## 1954年(昭和29年)

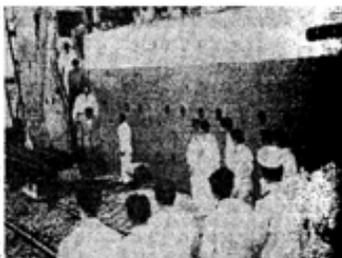
1月 25日、サンパウロ市創立400年祭。ゼツリオ大統領及びガルセス州知事臨席のもとに盛大に挙行される。

日本で日本海外移住協会連合会(海協連)設立。

7月 ブラジルへの養蚕移住者第一陣284人日本出発。

8月 24日ジェツリオ・ヴァルガス大統領自殺。

9月 6日、日本館落成



式(サンパウロ市内イピラプエラ公園内)。

10月 **ブラジル各州知事、連邦議員、州議員選挙が行われ田村幸重が日系初の連邦議員となる。**

11日、日航機「京都号」サンパウロ市コンゴニアス空港に着く。戦後最初の日本航空機。

1955年(昭和30年)

1月4日、連邦政府移民院との間に3ヵ年に1500人の青年を導入する特別契約書にコチア代表が調印。

9月 **コチア青年移民第一陣109人が到着。(以降16年間に2500人が移住)**

10月 **バストス市で畑中唯雄(仙次郎長男)が当選。日系市長第1号。**

11月 **バラ州旧フォード社ゴム園のベルテラ植民地(100家族)、フォードランジア植民地(22家族)にいた計125家族(785人)が、農務省の指示で退去させられる。**

12月 **サンパウロ市創立400年祭協力を解散した後、ブラジル日系人の中央機関としてサンパウロ日本文化協会が設立された。初代会長は山本喜誉司。(1968年9月ブラジル日本文化協会と改称)**

1956年(昭和31年)

1月12日、下元健郎、州税務裁判所判事に任命される。日系初。

4月 **在ベレン日本領事館が総領事館に昇格。**

6月9日、産業開発青年隊第一陣着伯。

7月6日、**日本海外移住振興会社の現地法人としてJAMIC創立。**

11月7日、(日本)全国農業拓殖協同組合連合会(全拓連)設立。

30日、渡辺マルガリーダ夫人が藍綬褒賞を受賞。コロニア初。

1957年(昭和32年)

2月 **クビチェック大統領が外国企業参加によるブラジルの経済工業発展を狙い外国企業を積極的に誘致。欧米や日本からの企業の進出が激化。**

3月15日、南リオグランデ移民着伯。南リオグランデ州、アルゼンチン国境近くのサン・ベードロ耕地の米作移民33家族198人、アフリカ丸でサントス港着。

5月 **首都圏ブラジリアに最初の日系人入植。**

6月23日、サントス大西洋漁業組合を日伯人船主24人で創立。

7月7日、開発青年隊受け入れ機関として協同組合の「サンパウロ農業拓殖協同組合(農拓協)」が発足。

9月24日、マツト・グロソ州ヴァルゼア・アレグレ移住地購入。移住事業団経営。

1958年(昭和33年)

1月 **コロニア実態調査本部は予備調査終了によって日系コロニア人口の中間発表。総人口を40万4630人、1960年には45万人と推定されると発表。**

25日、ウジミナス製鉄所発足。

4月 **日本文化センター建設予定地、サンパウロ市サン・ジョアキン街の大正小学校敷地の移譲に関する調印行われる。**

**農拓協セーラ・ドス・ドウラードスの産業開発青年隊訓練所が完成。(1965年閉鎖)**

25日、「憩いの園」(老人ホーム)開園式。

5月 **全拓連はグアタバラ耕地の一部購入につき総額の10%を手付け金とし売買契約を結ぶ。面積3017アルケール、8月入植者到着。**

6月18日、三笠宮臨席のもとに日本移民50年祭。文化センター定礎式。

山本喜誉司博士にブラジル政府より南十字星勲章を

受章。

10月 第2回コチア青年移民1500人の導入契約が移殖民院で結ばれる。

11月 アマゾナス州エフィジェニオ・デ・サーレス植民地に第1陣17家族が入植。

#### 1959年(昭和34年)

1月 ブラジル石川島造船所(リオデジャネイロ市)創立。「50年の歩み」のための沖縄系実態調査完了。その結果、沖縄系世帯は5738世帯、人口4万1745人と判明。

28日、日本移民援護協会(後のサンパウロ日伯援護協会)創設。

3月 ブラ拓が3月末で解散と新聞で報道される。

4月 ブラジル移民初めての集団花嫁12人が着伯。コチア青年移民達に嫁ぐ人たちである。



アクレ州キナリー植民地に第1回6家族(44人)が入植。(アマゾン流域最奥地の移住地)

10日、『実業のブラジル』創刊。

6月 マット・グロッソ州ヴァルゼア・アレグレ移住地へ初の入植者。

7月 シネ・ニッポン開館。

24日、岸信介首相来伯。日本の首相として初めて。

8月 ブラジル特殊陶業株式会社(NGK)創立。

10月 東山農業研修所第1回卒業生を送り出す。ガルボン・ブエノ乱闘事件発生。(新来移民青年と二世青年の抗争)。

#### 1960年(昭和35年)

2月 第1回南米柔道選手権大会(アルゼンチンのマル・デル・プラタ市で開催)でブラジル代表団体・個人とも

に優勝。

4月 ポルト・アレグレ市に日本総領事館開設。

5月 桜植民地(ブラジル岐阜村、経営者は足立小平治、モジ・ダス・クルーゼス)入植開始。

7月 マラニオン州ロザリオ市近郊のロザリオ連邦植民地に第1陣19世帯111人が入植。

61年さらに10家族52人が付近のムルアイ植民地に入る。

第2トメアスー植民地用として市役所が3万ヘクタールの地権を譲渡。

9月 モジ市市制400年祭。管内に居住する日系人2000家族。

10月 6家族の炭鉱移民着伯。福岡に炭鉱を持つ明治鉱業の炭鉱離職者(これとは別に三井鉱山の炭鉱離職者移住調査団が10月はじめ着伯)

#### 1961年(昭和36年)

1月 ブラジル石川島造船所建造第1号船進水式。

3月 バラ州グマ連邦植民地の邦人、パイス・カルバーリョへ集団移住。

アマゾニアの日系人1336戸、7203人

(1958年の調査から見ると1711人の増加)。

8月 オウリーニョス移住地入植開始。

グアタバラ植民の先発隊到着。ジャカレイー移住地初入植者到着。

11月 生田博、日系初の農学博士。

#### 1962年(昭和37年)

1月 グアタバラ移住地へ入植する移民第1陣12家族71人がサントス港に到着。

3月 ドミニカからの再移住者5家族29人着伯。



- 5月 初の日系判事誕生。渡辺和夫。  
7月 第1回全伯相撲大会(モジ・ダス・クルーゼス市)。  
9月 第2トメアスーの第1陣25家族114人が到着。  
サンパウロ総合大学に「日本語講座」を新設。  
10月 パラナ州から宮本実、サンパウロ州から平田進、田村幸重がそれぞれ連邦下院議員に当選。  
サンパウロ州議員には京野四郎、内山良文、森本アントニオ、野村文吾が当選。

#### 1963年(昭和38年)

- 7月 海外移住事業団(海外移住振興株式会社の後身)日本で発足。  
エリザベス・サンダース・ホーム(戦争孤児院・代表沢田美喜)がトメアスーに聖ステパノ農場を取得。  
31日山本喜誉司博士死去。  
8月 中尾熊喜サンパウロ日本文化協会の新会長に選ばれる。(副会長であったため山本前会長の死後に就任)  
10月 サンパウロ市議選挙で須貝アメリカ、小笹マリオが当選。

#### 1964年(昭和39年)

- 2月 **ブラジル農業技術研究会(ABETA)が「山本喜誉司賞」設定を決定。**  
3月 28日、**ブラジル外務省が伯国移住者受け入れに関する携行資金を最低5000ドルと定める。**  
4月 20日、セーラ・ドス・ドウラードスの産業青年開発隊訓練所開所式を挙げる。  
21日、サンパウロ日伯文化協会センター落成式。  
7月 森本アントニオがサンパウロ州労働長官に就任。  
日系初の州長官。



- 8月 日語普及会サンパウロ市に発足。初代会長は宮坂国人。

小松公樹ロッケが連邦労働裁判事に就任。日系初の連邦判事。

在サンパウロ総領事館が在伯日系人口は54万6963人、サンパウロ州に41万5000人、サンパウロ市に約10万人と調査結果を発表。

- 9月 ブラジル拓殖組合(ブラ拓)、正式解散。  
10月 上原幸啓、日系初の工学博士。  
11月 ベレン-ブラジリア国道が正式に開通。

#### 1965年(昭和40年)

- 1月 マナウス市に日本国領事館開設決定。  
2月 アマゾン(ベレン)に移民援護協会発足。1974年6月にアマゾニア日伯援護協会に改組。  
3月 日本政府派遣南米経済使節団来伯。戦後初。  
5月 ウジミナス製鉄所薄板工場操業開始。  
7月 25日、ノロエステ線カフェランジア平野植民地開拓50周年記念式典開催。居住する日系人世帯数は17家族。  
31日、山本喜誉司賞第1回授与式。受賞者は松本圭一、鐘ヶ江久之助、柿原義治、原本広の4人。  
8月 31日、日本海上自衛隊練習艦隊サントス入港。旗艦「あきづき」随艦「てるづき」「ゆうだち」「むらさめ」4隻。隊員1200人。  
9月 5日、第1回南米日系人大会。ペルー、アルゼンチン、パラグアイからの参加者50人。  
サンパウロ市の日伯文化センターで開催。  
10月 戦後13年間の移住白書。戦後移住者は4万6401人。  
同年、エリザベス・サンダース・ホーム出身の第1陣7青年が聖ステパノ農場に到着。

#### 1966年(昭和41年)

- 4月 移住者渡航費が全額日本政府支給となる。

ブラジル日本都道府県人会連合会初代会長に中尾熊喜が就任。

5月 コチア産業組が「コチア産業組合中央会」として発足。

6月 日本語普及会の調査「日系二世の結婚観」では、日本語学習経験者ほど混血結婚を否定する度合いが高まると指摘。

21日、第2回山本喜誉司賞。受賞者は阿部望、酒井章三、沢辺作蔵に決定。

7月 水銀剤(ネアンチーナ)をめくって60万箱のトマトが出荷停止処分。

マナウス管内邦人(日系人)1855人と同地領事館発表。

9月 28日、日本移民援護協会を連邦福祉団体として正式認可を得る。

12月 大正小学校閉校(1915年開校)。

1967年(昭和42年)

2月 ブラジル日本都道府県人会連合会主催、日本の移住連

合会の幹旋による  
第一回笠戸丸訪日  
団(移民9人、付添い6人)の一行が28日サントス港から母国訪問の途に着く。



8日、通貨が1000分の1のデノミで「新クルゼイロ」となる。

5月 25日、サンパウロ市バカエンブー競技場に8万人の日系人を集めて皇太子ご夫妻の歓迎大会。

6月 イグアスー・カフェ・ソルーベル株式会社が日伯合併で創立(パラナ州コルネリオ・プロコピオ市)。1971年工場落成。

7月 第3回山本喜誉司賞。受賞者は尾山良太(ジュート)、

岡本寅蔵(茶)、林茂夫(農村青少年指導)の3人、

8月 宮田幸信、薬学博士。(日系初)

12月 サンパウロ人文科学研究所(中尾熊喜会長)公益法人として認可。

1968年(昭和43年)

3月 サンパウロ蘭愛好会主催第1回蘭展示会開催。

6月 18日、日本移民60年祭。皇太子殿下来伯記念大講堂定礎式。

26日、バリグ航空日本乗り入れ開始。

8月 日本人街の名物シネ・ニテロイがアベニダ・リベルダーデに移転。

10日、第4回山本喜誉司賞。受賞者は岡野建、谷口章、故上野成美。

9月 7日、「ブラジル日本文化協会」が誕生。サンパウロ日本文化協会は13年目の総会で改名。

11月 地方自治体の選挙が行われ、大量の日系市長(11人)、副市長(20人)が当選。

12月 南米開発株式会社(那須皓社長)マット・グロソ州トレス・ラゴアスとイグアスー(パラグアイ)に牧場を購入。ブラジルでの現地会社は日伯農牧開発会社で日伯合併。

1969年(昭和44年)

1月 サンタカタリーナ州政府直轄植民地ラーモスからネクターリーナがサンパウロ市場へ本格的出荷。

2月 マット・グロソ州農務長官に初めて日系の只野正夫就任。

4月 バンディランテス産業組合理事会総辞職、政府の管轄下に入る。

5月 移住者渡航費(約60億円)全額免除となる。

同年、トメアスーのコ



ショウに病害が蔓延。農業者の新地帯への流出が盛んになってくる。

6月 ミランドポリス産業組合発足。

20日、サンパウロ大学日本文化研究所開所式。

8月 1日、第5回山本喜誉司賞。受賞者は平賀練吉、酒井栄造、臼井晋、堀清の4名。

10月 安田ファビオ良治商工大臣就任。日系人で初めての連邦大臣就任。

#### 1970年(昭和45年)

1月 20日、精神薄弱児収容施設「希望の家」が社会福祉団体として公認。希望の家福祉協会として発足。

3月 11日、大口総領事誘拐拉致事件。ブラジル政府が日系を含む5人の政治犯の釈放を認め、15日総領事解放。

7月 コチア産組が丸紅飯田ブラジル会社と日本の山本山と合併で緑茶加工販売会社を設立。

20日、移住事業団より渡航費返済金235万6050円、日伯移民援護協会の基金として払い戻される。天理教布教師の白木氏が来伯途中にハワイでパパイアの種子を入手。コショウの病害に苦しむバラ州の日系農家に提供。これがブラジルのパパイア・フームのもととなる。

8月 14日、第6回山本喜誉司賞。受賞者は中川勇蔵、平松薫、松岡春寿、吉岡太一の4人に決定。授賞式は9月4日。

9月 3日、皇太子来伯記念講堂落成式。(サンパウロ市、日伯文化センター内)

11月 総選挙で日系候補が連邦下院に3人、州議会に5人が当選。

#### 1971年(昭和46年)

1月 21日、全拓連とサンパウロ州教育局の提携により

日本の高卒者をブラジル農業高校に入学できる協定が結ばれる。

2月 日本大使館がリオデジャネイロからブラジリアに移転。リオに総領事館新設。

4月 在サンパウロ総領事館が管内邦人は5万9438家族、13万2026人と調査結果を発表。

29日、サンパウロ市議会が天皇誕生日を祝って初の「日の丸」を掲揚。

9月 4日、第7回山本喜誉司賞。受賞者は前田常左衛門、石橋初穂、古田土芳次の3人。

12月 日本外務省派遣「リベイラ川開発調査団」来伯。

#### 1972年(昭和47年)

1月 7日、日学連(日本語学校連合会)解散を表明。

3月 リオデジャネイロ市に日本人会誕生。

宮坂国人、南米銀行副頭取辞任。同時に日系諸団体のすべての役職から身を引き5月8日、日本へ帰国。

4月 ブラジル独立150周年祭日系協力委員会発足。

6月 サンパウロ日伯援護協会が誕生。(日本移民援護協会が名称を変更)

8月 第8回山本喜誉司賞。受賞者は今川嘉寿太、橋詰太郎、遠藤喜代治の3人。

25日、ミュンヘン五輪で石井千秋が柔道軽重量級で銅メダル。

9月 サンパウロ地下鉄南北線開通。

11月 「農業と協同」誌(コチア産組経営)が12月発行の第258号をもって廃刊と発表。

ブラジル人口1億となる。

統一地方選挙で日系市長13人、副市長14人、市議会議員137人が誕生。

#### 1973年(昭和48年)

1月 1954年以来19年間に52航海、約1万600

0人の移民を運んだ、『ぶらじる丸』が最後の航海で245人を乗せ、サントスに入港。



2月 サンパウロ州の農業高校に学ぶ制度の青年移民が到着、それぞれの学校に分かれて入学。

コチア産組の農業雑誌「農業と協同」がコチア産組中央会と南伯の共同経営となり「農業のブラジル」と名前を改めて発刊される。

長く日系社会の医療面に貢献してきた同仁会の解散が決定。その業務を日伯援護協会が引き継ぐ。

3月 最後の移住船「にっぽん丸」サントスに入港。これにより笠戸丸以来の船での移住が終わり、以降、移住は空路となる。

7月 6日、空路移住第1陣35人が着伯。

第9回山本喜誉司賞。受賞者は池田虎之助(カンピーナス)、清水一郎(ミランドポリス)、国沢寿春(リオデジャネイロ州)の3人。

8月 進出企業がサンパウロ市カンポリンボの「日本人学校」(文部省公認)に建設維持費として6億円を寄付。

9月 ミナス州のセラード  
地帯に日系農業者の  
関心高まる。→



10月 日系人は54万5900人(日本国籍12万7400人)、長期滞在者1830人と在サンパウロ総領事館発表。

遅れていた国援法適用申請者達9家族29人の日本帰国が決定。

11月 9日、経団連が日伯民間経済合同委員会を発足。(東京)15日、最後の勝ち組の3家族14人が国援法の適

用を受けて日本に帰国。

1974年(昭和49年)

1月 移住事業団がバルゼア・アレグレ(南マット・グロソ州)の土地を独立する単身移住者に分譲する構想を発表。

23日、サンパウロ市ガルボン・ブエノ街に朱塗り大鳥居建てられる。

3月 クリチーバ市に領事館設置が決定。

14日、臼井晋がイタリアブドウの新種「パトリシア」の育成に成功。

15日、ガイゼル政権の鉱山動力大臣に日系の植木茂彬が就任。(日系2人目)

4月 農業高校生の1期生5人が高校を卒業し、4人が農大に1人が医大に進学。

ミナス州サンゴタルドに一次の24家族が入植し開拓開始。コチア産組のセラード計画が進行。

6月 移住事業団がサントスの「移民の家」を援護協会に正式に譲渡。

8月 第10回山本喜誉司賞は藤原満寿門(ブドウ改良)、吉雄弘(肉牛改良)、滋野基市(種鶏)の3人が受賞。コチア組合員農家がサンタ・カタリーナ州のサン・ジョアキンに進出してリンゴ園地を開墾。

9月 サンタ・クルース慈善協会、カンボス療養所の土地を援協に無償譲渡を決定。

田中角栄総理大臣がガイゼル大統領と会談。日本政府セラード開発に協力を約束。

10月 日本ブラジル議員連盟が発足。

11月 統一選挙で日系5人が下院に当選。

1975年(昭和50年)

1月 南リオグランデ州のイボチ植民地からブドウ「巨峰」初出荷。

2月 日本政府のセラード調査団来伯。

3月 サンタカタリーナ州ラーモス移住地から(日本種)リング「陸奥」を初出荷。

4月 ブラジル日本文化協会の新会長に中沢源一郎就任。  
援護協会会長に竹中正就任。

ブラジル日本都道府県人会連合会が公認団体に。

8月 30日、第11回山本喜誉司賞が田村武馬(ジャガイモ)、余湖清(丁子)、平井喜見三郎(メロン)に贈られる。

21日、藤田エジムンド進がブラジル外交官に。(日系外交官第1号)

9月 27日、国際協力事業団がジャカレイに「ブラジル農業移住者訓練センター」を開設。

#### 1976年(昭和51年)

1月 日本から養蜂視察団が来伯。

2月 サンタ・カタリーナ州ラーモス移住地のリング本格的出荷を開始。

7月 サンパウロ大学日本文化研究所落成式。

9月 第12回山本喜誉司賞は中尾家憲(ラン)、斉藤広(イタリアブドウ)、渡辺曠(トマト)に贈られ、特別感謝状がリングの後沢憲志博士に贈られる。

ガイゼル大統領ブラジルの元首として初めて日本を訪問。

国際直接通話が日本と開通。

10月 トメアス一種民地に道路が貫通。

11月 15日、全国統一地方選挙で日系候補が市長に15人、副市長に11人、市会議員に82人当選。(サンパウロ州、パラナ州の結果)

#### 1977年(昭和52年)

2月 パラグアイから青年農業実習生が来伯、各地の日系農家を見学。

県連が県別の過去帳の作成を開始。イビラプエラの先没移民慰霊碑に奉納。

5月 25日、コチア産業組合中央会が創立50周年記念式典を行う。

6月 25日、グアタバラ移住地で慰霊碑の除幕式。

8月 第13回山本喜誉司賞は下桐梅一(ジャガイモ種芋)、伊藤泰三(アボガド)、福士堪二郎(イチゴ)に贈られ、コーヒー栽培に貢献したアルシーデス・カルバリーヨ博士に感謝状が贈られる。

11月 ラーモス移住地のニンニク優良種「長南種」を農務省が全国に配布。

移住事業団がカッポン・ポニートにアウリ・ベルデ直営植民地の造成開始。

### 1978年(昭和53年)

- 1月 移住事業団アウリベルデ移住地の土地分譲を開始。  
10日、故山本喜登司の遺族が、先に日本政府から贈られた勲三等旭日章など全ての勲章、勲記を移民史料館に寄付。理由は「山本個人が得たものではなく、コロニアが得たもので、史料館に置くのが適当」というもの。  
28日、ブラジルから明治村(愛知県)に移民史料47点が贈られる。
- 2月 フェーラス・デ・バスコンセーロスの井口吉三郎が個人で老人ホームを建設。
- 3月 日語普及会が解散し、日伯文化連盟(アリアンサ)に併合。
- 6月 第5回海外日系新聞協会年次総会がサンパウロで開かれる。  
18日、日本移民70周年記念式典。



パカエンブー競技場に8万人の日系人を集め、皇太子ご夫妻、ガイゼル大統領夫妻等を迎えて盛大に挙行される。

サンパウロ市東洋街マルブ・ダ・ポルポラに日本庭園

完成。上塚周平の銅像を建立。

「日本移民史料館」落成式。

20日、日航のサンパウロ・東京定期便始まる。

- 8月 第14回山本喜登司賞は日野薫(サボテン)、柳瀬三千年(綿)、五十嵐正雄(コーヒー)、伊藤元治(種鶏)に決定。
- 10月 リベルダーデ商工会が同名広場で朝のラジオ体操を始める。
- 11月 セラード開発推進する日伯合弁資本の農業開発会社C P Aの基本協定調印。  
統一選挙でサンパウロから3人、パラナから1人が下院議員に当選。

### 1979年(昭和54年)

- 2月 日本移民史料館の資料室完成。
- 3月 パウリネリ農相がセラード開発に日系農家の協力を呼びかける。
- 5月 30日、日本政府の資金協力によるセラード開発に参加するために、日系コロニアはセラード農産物輸出会社(山本勝造社長)を設立。
- 7月 駐ブラジル大使に大口信夫元サンパウロ総領事が着任。
- 8月 11日、第15回山本喜登司賞は吉岡省(桃)、小川真一(ゴヤバ)、広岡優(ブドウ)の3氏に、特別賞がオランダ・リジターノ博士に贈られる。  
16日、第2回日伯閣僚会議開催(ブラジリア)。日本団長は園田直外相。
- 9月 今年の移民の上半期の入国者は44人とJICAが発表。  
インフレが昂進、日系人の間に「頼母子」流行。
- 11月 東京農大サンパウロに会館を開設。  
アマゾン日本移民50周年記念式典挙行。
- 12月 21日 日本外務省に「中南米局」新設。

### 1980年(昭和55年)

1月 在サンパウロ総領事館は前年度比で在留邦人1920人の減少と発表。

「第1回日本語教師養成研修会」実施(日伯文化連盟と国際協力事業団共催)

2月 日系三世山崎チズカ監督の初期移民を取り上げた映画『ガイジン』、サンパウロ近代美術館で特別試写会。

4月 農業専門誌「ブラジルの農業」廃刊を決定。

7月 第一回コチア産業組合婦人・青年大会開催。

8月 27日、「日本移民70年史」刊行。

第16回山本喜誉司賞は西村俊治(農機具)、山口長俊(カリフラワー)、永野幹児(種いも)。功労賞がアルバロ・サントス・コスタ(植物病理)。

9月 国援法による帰国申請急増。

10月 農業、中でも養鶏はドン底状態、借金を苦にしたモジの養鶏家が自殺。

12月 1980年度の新規移民数172人。うち工業関係が61人、農業関係71人、近親呼び寄せ33人、その他の移住7人。(国際協力事業団サンパウロ支部発表)

### 1981年(昭和56年)

1月 クリチーバ領事館が総領事館に昇格。

3月 日本ブラジル交流協会の第1回研修生13人が来伯。

5月 サンタ・カタリーナ州カッサドール移住地の入植者募集開始。

7月 第17回山本喜誉司賞は西森多光(リンゴ)、上佐義雄(ニンジン)、杉本正(ジャガイモ連作技術)。功労賞にエジソン・コンソールマーノ技師(農業技術)。

8月 アマゾン日系実態調査の結果は、1700家族(8000人)となった。

9月 スザノの福博植民地が入植50周年。

四半世紀にわたり移民業務を担当した国際協力事業団

のブラジル法人JAMICとJEMISが業務閉鎖。

10月 移住者に対する融資事業の引き継ぎでJEMISと南銀の間で同意書に調印。

アマソナス州バレンチンスで高拓生入植50年記念祭。

### 1982年(昭和57年)

1月 在サンパウロ総領事館がサンパウロ管内の日本人は10万240人と発表。

12日、コチア青年連絡協議会が日本語の農業雑誌「アグロナッセンテ」を刊行。

15日、ボンペイア市の西村俊治氏が西村農業高校を設立。

3月 82年のサンパウロ州立大学合格者7748人の内、日系子弟は13%の978人。(人文研が発表)。北海道協会ボーイスカウト隊を組織。

4月 国際協力事業団(JICA)がサンパウロ総領事館分室で業務開始。

5月 11日、スザノ市の内谷忠雄夫妻が土地の一部2.5アルケールを援協へ寄付。

15日、グアタバラ移住地入植20周年と公民館の落成式。

6月 20日、工業移住者協会が工業移住20年を祝う。21日、日本ブラジル中央協会創立50周年。

8月 第18回山本喜誉司賞は市村之(ラミー)、木村忠雄(ジャガイモ)の2人。功労賞が蔬菜技術のサリン・シモン技師に贈られる。

9月 日系花卉生産者達が「サンパウロ花卉生産者協会」を設立。

11月 コチア組合幹部の給料はあまりにも高額と内部告発。統一地方選挙で日系候補が下院に3人、州議会に3人当選。

12月 「日本週間」開催。(総領事館、日本貿易振興会、国際

交流基金、国際観光振興会の共催)

### 1983年(昭和58年)

- 1月 行政改革のあおりで、国際協力事業団が「海外移住関係業務廃止」を決定。日系コロニアに衝撃、廃止案撤回要請の電報を関係筋へ送ることを決定。  
在サンパウロ日本総領事館、管内邦人数を1982年10月11日現在で10万2465人と発表、内永住者9万8645人で前年比1173人減。  
日系初の実費制老人ホーム「スザノ・イペランジア・ホーム」開所。  
「海外移住関係業務廃止案」は日本関係筋の運動で撤回。
- 4月 ブラジル日本文化協会会長に尾身倍一を選出。  
野村丈吾、ブラジル下院外交委員長に就任。
- 6月 18日、日本移民75周年、先没者追悼ミサおよび記念行事。
- 8月 第19回山本喜誉司賞は奥山孝太郎(ブドウ・ルビー種)、鹿毛博文(大豆)の2人。功労賞が大豆育種の宮坂四郎に贈られる。
- 9月 赤間学院(サンパウロ女学院)創立50周年。
- 11月 移民史料館で「初期植民地展」開催。資料はジュケリー、イグアッペ、コチア、リンス、東京、ピリグイ、

平野、カカター、バイベン、ブレジョン、上塚の11植民地。

日伊伯合併ツバロン製鉄所の高炉に火入れ。

半田知雄、絵画シリーズ「移民の生活」45点を日本移民史料館に寄贈。

「日系社会の将来と展望」セミナーを日系二世、三世を対象に開催。(ブラジル日本文化協会主催)

### 1984年(昭和59年)

- 1月 本年度事業計画として文協は総合スポーツ・センター建設、援協は病院建設に全力。  
在サンパウロ日本総領事館が管内(サンパウロ、マット・グロッセと三角ミナス)日本人数10万627人と発表。  
聖市ノーボ・ムンド所在「工業移住センター」の敷地建物の対援協有償譲渡式。  
コーバス聖市市長、65歳以上の無料乗車を制度化。
- 2月 移住開始から30周年の「コチア青年」が記念誌刊行を企画。移住2500人の内、帰国・死亡約500人、残り実数はほぼ2000人、と関係者。  
在伯日本8公館調べで、全伯の日本人13万433人と判明。

(中国梨)の2人。

10月 バラグアイで「日本人移住50年祭」挙行。

11月 総選挙、日系候補下院3人、州議4人が当選。

#### 1987年(昭和62年)

1月 在サンパウロ総領事館管内邦人数9万5764人、前年比1713人減。

3月 日本の農村から花嫁探しに来伯。

6月 シネ松竹28年の歴史を閉じる。

8月 **コショウ相場が暴落し、アマゾン流域からの日本出稼ぎが盛んとなる。**

9月 コチア産業組合中央会創立60周年を祝う。

10月 コチア産組、ジャカレイに農業高校落成。(創立60周年記念事業)

11月 日本へUターン出稼ぎ問題化。労働省が実態調査へ。

#### 1988年(昭和63年)

1月 在サンパウロ総領事館が管内邦人数9万3767人と発表。

半田知雄著「移民の生活の歴史」のポ語版出版記念会。

2月 日本語普及センターが創立総会。初代会長橋富士雄。

4月 **日伯友好病院が落成。**

5月 国際協力事業団がアルゼンチン日系人口実態調査の結果は4万7300人と発表。

16日、サンパウロ人文研がブラジル在住日系総人口を116万人、純日系は84万人、世帯総数は33万7000と調査中間発表。

6月 バラナ州で移民80年祭物産展開催される。

18日、ブラジル日本移民80年祭祝典がサンパウロ市バカエンブー競技場で開催され、サルネイ大統領と礼宮殿下が参列。

8月 第22回山本喜誉司賞が下坂東五郎(セラード農業)、岡本荘平(地域農業)、フラビオ・アウグスト・

デ・アラウジョ・コート(農業研究)の3氏に。

12月 出稼ぎ、旅券申請で総領事館大混雑。

#### 1989年(昭和64年/平成元年)

1月 7日、昭和天皇崩御。

18日、続木正剛教授、保健・衛生大臣就任。日系史上3人目の大臣。

2月 援協診療所は日本の出稼ぎ希望の若者達の健康診断や検査に大重。アマゾン方面で領事館前にビザを求める人の行列が出来る。

3月 リオデジャネイロ日系協会で初の二世会長誕生。

11月 ベレン、トメアスーなどでアマゾン日本移民60年祭典。

#### 1990年(平成2年)

2月 第2次大戦勃発と同時に敵性資産として接収されたサンタ・クルース病院(旧日本病院)の返還運動がライオンズクラブ日系人を中心に進められていたが、同病院役員会医師に日系人半数参加に病院側が同意。**サルネイ大統領も日伯合意書にサイン、旧日本病院の返還に大きく一歩を踏み出す。**

リベルダーデ商工会、リベルダーデ通りに東洋文化会館を建設、落成式挙行。

2月のインフレ72.78%とIBGE発表。サルネイ政権5年間のインフレ率は100%に達した。

4月 在サンパウロ総領事館の訪日ビザ発給数3ヵ月で1万件を突破、日系二、三世の出稼ぎ急増。

5月 出稼ぎでモジの日系農家が激減。野菜類が異常な高値とポ語紙のルボ。

6月 日本法務省入国管理法を改正実施。日系人の日本入国・在留の条件緩和。

日本相撲協会から大相撲一行100人。3日間に渡りサンパウロ・イピラプエラ体育館で興行。

日本法務省が入国管理法を改正実施。日系人の日本入国・在留の条件緩和。

8月 サンパウロ総領事館前に出稼ぎ者ビザを求め1日平均200人の上る長蛇の列。

28日、第23回山本喜誉司賞が熊谷春雄(ゴヤバ)、熊谷清市(ゴヤバ)、七種忠利(ピーマン)の3氏に。日本語普及センター落成。

9月15日、ベレンに「アマゾン日伯文化交流センター」が落成。

セラード開発プロジェクトの一環、バイア州バレイラス在コチア産組の団地入植者、融資資金の停滞のため崩壊の危機に直面。

10月 日本移民80周年記念事業の一環として人文研が行ってきた「日系人口調査」が完了。日系総人口は122万8000と発表。

総選挙で日系史上最高の7下院議員誕生。

日系4大移住地の一つ、チエテ移住地のシンボルであったチエテ橋(ポンテ・ノーボ・オリエンテ)がダム建設の犠牲となって湖底に姿を消す。

11月 ふるさと創生訪日団249人が出発。日本で10日間の交流を果たす。

#### 1991年(平成3年)

1月 小林パウロがサンパウロ市議会議員に選出される。日系で初めてのサンパウロ市の市議会議員。

3月 南米銀行の新社長に二世の伝田耕平就任。二世の登用は初めて。

4月 ブラジル日本文化協会の新会長に山内淳就任。初めての二世会長。

7月 ブラジル非日系男性4人、日系女性との偽造結婚証明で出稼ぎに訪日、不法就労が発覚逮捕される。

第24回山本喜誉司賞が村田豊太郎(日本製の開

発)、青山繁(ジャガイモの害虫防除・連作方法の開発)、山元守(サンフランシスコ河畔地区のブドウ栽培開発)の3氏に。

8月 日本の労働省が雇用サービス・センターをサンパウロに設立。

90年度のビザ発給6万3000件と在サンパウロ日本総領事館が発表。

11月 **ブラジル日本文化協会主催「出稼ぎに関するシンポジウム」開催。**

#### 1992年(平成4年)

1月 日本航空が名古屋直行便を就航。

サンパウロ日本総領事館、91年度のビザ発給6万1500件と発表。

92年の日本出稼ぎ健康診断受診者7109人で、うち一世は9.1%、二、三世が88%であり、非日系が7.3%と援協診療所が発表。

2月 元留学生と海外研修員のOB会が合併し、アセベックス(ACEBEX)として発足。

日伯友好病院とサンタ・クルース病院が協力体制確立を決定。

3月 救済会の渡辺マルガリーダ会長に「吉川英治文化賞」授与決定。

90年度の日本学生相撲チャンピオンの三世池森剛が玉ノ井部屋入門。

4月 文協に出稼ぎ情報・オリエンテーション・援護センター発足。

日伯経済合同会議が7年ぶりブラジリアで開催。

5月 援協診療所の出稼ぎ健康診断が激減。

6月 **リオデジャネイロ市で国連環境開発会議(地球サミット)開催。**

救済会創立50周年式典が憩いの園で開催。

- 7月 インフレで政府10万クルゼイロ紙幣発行。
- 8月 第25回山本喜誉司賞が村上慶之輔(果樹との複合経営)、平田マノエル正(コーヒー密植栽培)、伊勢知明(有機農法)に贈られた。  
前田農場の飛行機がサンタ・カタリーナ州で墜落、前田4兄弟死亡。
- 9月 下院でコーロル大統領弾劾可決。
- 10月 文協、援協、県連が「国外就労者情報援護センター」設立。  
大韓航空がサンパウロに乗り入れ、週2便運行。  
統一地方選でサンパウロ市議に小林パウロ、神谷牛太郎、羽藤ジョルジ、野村アウレリオの4人が当選。  
パラナ州ではアサイに四世の日系市長が誕生。  
ブラジルのインフレ率115.8%、経済成長率マイナス0.8%と連邦政府が発表。

#### 1993年(平成5年)

- 1月 92年度ビザ発給数4万1828件と在サンパウロ日本総領事館発表。  
三重県下で非日系人を含む日系出稼ぎ者の強盗事件2件発生。
- 2月 日本出稼ぎ者のノイローゼ患者急増。
- 5月 コレラ、サンパウロでも本格的流行の兆し、日本料理店大打撃。この結果、日本料理協会発足。  
コチア産組中央会の財政危機ついに表面化。
- 6月 サンパウロ市に日本料理店協会発足。  
18日、日本移民85周年記念。笠戸丸第1回移民の中で現在健在なのはロンドリーナの中川トミー一人となる。
- 7月 ビザ発給数、前年前半期に比べ39%減の1万6803件と在サンパウロ日本総領事館発表。  
第26回山本喜誉司賞が秋山辻松(アボガド栽培)、

加納末広(果樹栽培)、下前原輝男(アセローラ栽培)、特別賞に内海義男が決定。

- 8月 ブラジル政府通貨のデノミ(1000分の1)を実施。
- 10月 日本外務省が海外在留邦人68万人、ブラジルには9万7500人と発表。
- 11月 日本外務省の海外移住審議会が5年ぶりに外務大臣に意見書を提出、移住者援護対策を三世まで拡大。  
コチア産組中央会従業員給料遅配で抗議デモ。
- 12月 ブラジル博物研究会植物標本館をサンパウロ市イタケラ地区に建設着手。

#### 1994年(平成6年)

- 2月 日本法務省入国管理局が昨年6月現在の在留ブラジル国籍者は15万5714人と発表。  
一世のUターン組及び二重国籍二世を含めると、日本国内就労者は17万人を超える。
- 3月 日伯両政府がブラジリアでセラード農業開発第3期事業プロジェクトについての契約及び貸付契約の調印。事業費約149億円、事業面積8万ヘクタールの農業開発のスタート。  
実施地域はマラニオン、トカンチンス両州、事業期間は5年間、入植者数は80戸。  
スール・ブラジル農業組合中央会が任意解散を決定。
- 4月 在外選挙権全国署名運動開始。(ブラジル日本都道府県人会連合会の主導)
- 6月 ブラジル南部諸州に大寒波。野菜、果樹に大被害、北パラナ、奥サンパウロのコーヒー樹も被害大。
- 9月 コチア産組中央会が任意解散決定。創立以来67年に渡るブラジル最大の農協が消滅。
- 10月 総選挙で日系候補5人が下院に当選。サンパウロ州議には3人当選。
- 12月 ブラジルからの出稼ぎ者に対応するために、日本の

6 県警から 8 人の警察官がサンパウロでポルトガル語の研修。

#### 1995年(平成7年)

1月17日、阪神地方に大地震発生、死者5200余名。同地方に出稼ぎの日系ブラジル人8人も死亡。

2月20日、東京都内の地下鉄16駅で毒物サリンが撒かれ、5500人が重軽傷。12人が死亡。

3月日伯修好100年記念事業の一つとして、サンパウロ市内カルモ公園およびイピラプエラ公園にイペー植樹。

6月平野植民地入植80周年記念式典挙。残留日系家族は14家族。

8月日本のふるさと創生訪伯団101名が来伯。各地で日系と10日間にわたり交流。ブラジル陸軍に日系二世将官誕生。(小野彰少将、55歳)

9月第27回山本喜誉司賞に古橋侑雄(ブドウ栽培)、長南俊(ニンニク)、特別賞に間島正典氏。コチア青年移住40周年記念式典。

11月日伯援護協会友好病院の新病棟落成。

12月95年6月現在のブラジル人日本在留外国人登録者は17万人(日本法務省入国管理局発表)

#### 1996年(平成8年)

1月外国人身分証明書の更新始まる。南米への移民船として活躍した「ぶらじる丸」は、引退後、三重県鳥羽市に係留され、観光施設として第二の人生を送っていたが、経営不振のため1月31日で閉館。

2月95年末の群馬県の外国人登録者数は、半年前に比べ9.8%増加。国籍別で見るとブラジル人が1万1121人だった。

サンパウロ州連邦警察本部長に就任した大城ユキオ氏の激励祝賀会が沖縄県人会で開かれる。

国際協力事業団「日系人支援セミナー、日系社会と日本語教育」を開催。

3月12日、日系コロニアの福祉に長年おおきな貢献をしてきた渡辺マルガリーダ・救済会会長が死去。

28日、ブラジル日系美術館、文化センターの同美術館でオープン。

4月9日、ホンダ・ブラジルがスマレーに工場建設を発表。

5月植物学者・橋本梧郎の「ブラジル産薬用植物事典」出版。

7月バスビ航空がサンパウロ-大阪間に直行便スタート。

8月1日、「移民の生活の歴史」などの著書で知られる画家の半田知雄氏死去。

橋本首相来伯。

9月8日、南米産業開発青年隊40周年記念式典。

10月日本・メルコスール高級事務レベル協議がサンパウロ市内で開催。

県連創立30周年記念式典。

アマゾン「群馬の森」登記調印式。

12月10日、天皇、皇后両陛下ご来伯歓迎委員会、ブラジル日本移民90年祭委員会の発会式。

#### 1997年(平成9年)

1月13日、文協が「日伯学院」構想に関して「公聴会」を開く。

2月コロニア・ピニャールの日本語モデル校落成式。(国際協力事業団が助成)

サンパウロ州リベイラ川流域の集中豪雨で、日系農家60家族の直接被害が720万レアルと発表。

外国人身分証明書の配達始まる。

3月天皇皇后両陛下ご来伯の記念事業として、移民史料館の増設計画が承認される。

- 4月25日、1月に就任したサンパウロ州内の日系市長、副市長を招いて、日本政府関や企業の代表による講演会と質疑応答を行う「日本を知るセミナー」を文協で開催。
- 5月17日、日系団体の青年リーダーが集まり日系社会の将来を考える「第2回全伯日系団体青年リーダー会議」開かれる。  
31日、天皇皇后両陛下ベレン空港に到着。
- 6月1日、天皇皇后両陛下アマゾン河を視察、州在住の日系人、在留邦人による歓迎式典。  
2日、ブラジリアで大統領夫妻主催晩餐会。  
3日、議会訪問、日系人による歓迎会。  
4日、ミナス・ジェライス州ベロオリゾンテ市、夕刻サンパウロ市到着。  
5日、イピラプエラ体育館で日系人らの歓迎会等のあと9日までクリチーバ、リオデジャネイロ市を訪問した後アルゼンチン向け離伯。  
18日、日本移民89周年。
- 7月 ブラジル政府が外国人身分証明書の再更新の期限を8月13日までと通達。
- 8月 出稼ぎによって引き起こされる問題を、「教育」「精神衛生」「社会問題」「再適応」の4つの視点から討議するためのシンポジウム「出稼ぎ現象の10年」が開催される。
- 9月 全日本高校野球選抜チーム来伯。マリンガ、サンパウロ、クリチーバの各地で6試合行われる。  
22日、間部学画伯、敗血症で死去。行年73歳。  
大分県人会創立45周年式典に出席するため来伯した平松彦彦知事が文協小講堂で「一村一品運動」の講演。
- 10月 ブラジル・ホンダ自動車の自動車製造工場の落成式。  
16日、カルドーズ大統領が「外国人で60歳以上の

高齢者と身体障害者は外国人身分証明書の有効期限9年を過ぎても更新する必要はない」という文書に署名。

- 11月10日、ブラジル日本都道府県連合会が創立30周年記念誌「ブラジル県連」(第4号)を発刊。
- 12月6日、喜多川豊宇日本学術振興会サンパウロ研究連絡センター長による「デカセギの社会学ー日本人移民の社会史」講演会をサンパウロ大学文化研究所で開催。

#### 1998年(平成10年)

- 1月 OECF(海外経済協力基金)は、パラナ州で計画している「パラナ州環境改善事業」に対し、所要資金として236億8600万円を限度とする貸し付けを行うことを決め、借款契約に調印。
- 2月2日、パウリスタ新聞社と日伯毎日新聞社が両社の合併を発表。
- 3月3日、ニッケイ新聞創刊。  
パラナ州の日系コロニアが進める移民90年祭記念事業にパラナ州政府が120万レアイスの援助を決定。サンパウロ州内の日系市長21人と4人の副市長を野村文吾元連邦議員が引率、日系人大会のほか日本政財界の要人との接触、各地訪問で親善友好を深めるために訪日。  
30日、日本海外移住家族会連合会会長の田中龍夫氏が死去。
- 4月 ブラジル日本文化協会が「文協40年史」を発刊。  
24日、日本国籍を有する在外邦人の国政選挙への投票権を認めようとする公職選挙法改正案が、参院本会議で全員一致で可決成立した。在外有権者の投票は2000年以降に実現することになった。  
「サンパウロ日本文化センター」発足。(国際交流基金サンパウロ事務所が発展的に改称)

- ：ミ 日系企業経営のホテル・シーザーパークがサンパウロ、リオデジャネイロ、ブエノスアイレスの3ホテル売却発表。
- 6月 19日**、南米銀行がスダメリス銀行本社で同金融グループとの間で署名を交わし、経営権を委譲することを正式に決定した。  
21日、ブラジル日本移民90年祭がアニエンビー国際会議場で開かれる。  
サントス市のボケイロン海岸で日本移民ブラジル上陸記念碑の除幕式が行われる。記念碑は高さ2メートル30センチの御影石の台座、橋本首相による「日本移民ブラジル上陸記念碑」という揮毫、上に親子3体のブロンズ像。
- 7月 25、26日**、日本移民90周年記念事業として県連主催でイピラプエラ公園で「郷土食と郷土芸能フェスティバル」を開催。延べ12万人の入場者と主催者発表。
- 8月 90周年記念・国際親善「早慶戦」野球大会開催。**  
15日、エスピリット・サント州ヴィトーリア市でブラジル日本移民90周年記念式典。同州には約200家族、1000人の日系人が居住。
- 9月** 援協がグァールリョス市に建設する特別養護老人ホーム定礎式。  
伯国に進出して40周年を迎えたブラジル・トヨタ自動車がインダイアツーバ生産工場の落成式。
- 10月** 全国統一選挙で日系で当選した連邦議員は小林パウロ氏のみとなる。  
10日、文協を全伯日系団体連合会として改組する方針が、第8回日系団体代表者会議で可決される。  
24団体による連合会結成実行委員会も組織され、連合会への改組についての検討作業が進められることになった。
- 11月 28日**、西村俊治技術財団が運営するポンペイア農工高校の第15回卒業式が行われ34人が卒業。これまでに延べ504人が卒業した。
- 12月 1日**、ブラジル国税庁が外国からの入国者に対し、税関での手荷物の申告を義務づけ。ブラジル農業技術研究会(A B E T A、菊地ルイ会長)が、選考表彰していた「山本喜誉司賞」が1999年度からブラジル日本文化協会に移転、継続されることになった。  
海岸地帯で犯罪急増。  
ペルーの沖縄県人会が20周年記念誌を発行。  
日本政府、在外選挙実施で法令を整備へ。  
東洋街で34年の歴史を誇る「スーパーいいだ」が閉店。  
9日、博識の文筆家で帰伯二世の馬場謙介さん死去。  
援協、巡回診療車を更新。  
ブラジル政府が、公益団体の優遇措置見直しの「社会保障改革法案」。日系団体にも影響。  
17日、在外選挙権問題で在サンパウロ日本総領事館が説明会。  
旧コチア産組の資料、史料館へ。  
援協への就職相談増加。

# ブラジルの最低給料(1966-1999)

年月	金額	年月	金額	年月	金額
1967/2/13		1987年05 Czs	1.641.60	1990年06 Crs	3.857.76
1000 Cruzeiros		1987年06 Czs	1.989.92	1990年07 Crs	4.904.76
= 1.00 Cruzeiro Novo		1987年09 Czs	2.062.31	1990年08 Crs	5.203.46
1967年 NCrs	105.00	1987年10 Czs	2.159.03	1990年09 Crs	6.056.31
1968年 NCrs	129.60	1987年11 Czs	2.260.29	1990年10 Crs	6.425.14
1969年 NCrs	156.00	1987年12 Czs	2.550.00	1990年11 Crs	8.329.55
		1988年01 Czs	3.060.00	1990年12 Crs	8.836.82
1970/5/15		1988年02 Czs	3.600.00	1991年01 Crs	12.325.60
1.00 Cruzeiro Novo		1988年03 Czs	4.248.00	1991年02 Crs	15.895.46
= 1.00 Cruzeiro		1988年04 Czs	4.932.00	1991年03 Crs	17.000.00
1970年 Crs	187.20	1988年05 Czs	5.918.00	1991年09 Crs	42.000.00
1971年 Crs	225.60	1988年06 Czs	6.984.00	1992年01 Crs	96.037.33
1972年 Crs	268.80	1988年07 Czs	8.376.00	1992年05 Crs	230.000.00
1973年 Crs	312.00	1988年08 Czs	10.464.00	1992年09 Crs	522.186.94
1974年 Crs	376.80	1988年09 Czs	12.702.00	1993年01 Crs	1.250.700.00
1975年 Crs	532.80	1988年10 Czs	15.756.00	1993年03 Crs	1.709.400.00
1976年 Crs	768.00	1988年11 Czs	20.476.00	1993年05 Crs	3.303.000.00
1977年 Crs	1.106.40	1988年12 Czs	25.585.00	1993年06 Crs	4.639.800.00
1978年 Crs	1.560.00	1989年01 Czs	31.866.00		
1979年05 Crs	2.268.00			1993/6/30	
1979年11 Crs	2.932.00	1989/1/16		1000 Cruzeiros	
1980年05 Crs	4.149.60	1000 Cruzados		= 1.00 Cruzeiro Real	
1980年11 Crs	5.788.80	= 1.00 Cruzado Novo		1993年08 Crs	5.534.00
1981年05 Crs	8.464.80	1989年02 NCzs	36.74	1993年09 Crs	9.606.00
1981年11 Crs	11.928.00	1989年05 NCzs	46.80	1993年10 Crs	12.024.00
1982年05 Crs	16.608.00	1989年06 NCzs	120.00	1993年12 Crs	18.760.00
1982年11 Crs	23.568.00	1989年07 NCzs	149.80	1994年01 Crs	32.882.00
1983年05 Crs	34.776.00	1989年08 NCzs	192.88	1994年02 Crs	42.829.00
1983年11 Crs	57.120.00	1989年09 NCzs	249.48		
1984年05 Crs	97.176.00	1989年10 NCzs	381.73	1994/7/1	
1984年11 Crs	166.560.00	1989年11 NCzs	557.33	2750 Cruzeiro Reais (URV)	
1985年05 Crs	333.120.00	1989年12 NCzs	788.18	= 1.00 Real	
1985年11 Crs	600.000.00	1990年01 NCzs	1.283.95	1994年07 Rs	64.79
		1990年02 NCzs	2.004.37	1994年09 Rs	70.00
1986/2/28		1990年03 NCzs	3.674.06	1995年05 Rs	100.00
1000Cruzeiros = 1.00 Cruzado				1996年05 Rs	112.00
1986年03 Czs	804.00	1990/3/16		1997年05 Rs	124.00
1987年01 Czs	964.80	1.00 Cruzado Novo		1998年05 Rs	130.00
1987年03 Czs	1.368.00	= 1.00 Cruzeiro		1999年05 Rs	136.00

(おわり)